

# 第一章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」  
「友だち」

p.16  
～  
p.17

## 中心資料

小学校道徳の指導資料第二集 第二学年  
昭和四十年 文部省 「泣いた赤おに」

### 【主題名】 本当の友達

第三学年及び第四学年 2・③

「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」

【ねらい】 友達を信頼し、助け合っていることについて育む心性を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》三・四年生の時期の児童は、気の合う友達同士で仲間をつくり自分たちの世界を確保して楽しもうとします。集団での活動が盛んになるのに伴い、友達と衝突してしまうことも増えます。友達の大切さや、自分がどのように友達に接しているかを振り返らせながら、互いに理解し合い、信頼し合い、助け合える関係を築くこととする姿勢を身に付けさせることが大切です。



「友達がいてよかったと思ったことがありますか。それは、どのようなときですか。」

○友達がいてよかったと思った経験を発表し合うことを通して、友達について考えていくという道徳的価値への方向付けをしましょう。  
○「友達とはどういうものか、考えてみましょう。」といった言葉掛けで主題にかかわる問題意識をもたせましょう。

○教師が「泣いた赤おに」を読み聞かせましょう。



「青おにをなぐっているとき、赤おには、どのような気持ちだったでしょうか。」

○自分のために一生懸命になってくれている青おにに対する赤おにの気持ちについて、考えさせましょう。



「人間と仲良く過ごしているとき、赤おには、どのような気持ちだったでしょうか。」

○人間と仲良くなれたうれしさとともに、そこには友達である青おにの協力があったことについても考えさせましょう。

## 展開

### 中心発問



「青おにからの、長い旅に出るといっはり紙を読んだとき、赤おには、どのような気持ちだったでしょうか。」

○青おにの深い思いやりを知った赤おにの気持ちを考えさせましょう。

《評価》 友達である赤おにの幸せを一番に願っていた青おにの深い思いやりを知った赤おにの気持ちを、考えることができたか。



「友達のことを考えて行動したことがありますか。それはどのようなことですか。」

○友達のためを思って行動した経験を発表し合い、友達とどのように接していけばよいか、考えを深めさせましょう。

## 終末

○「心しなやかに」 p.16 「友だち」を全員で音読させ、自分のそばで自分のことを考えてくれている友達の大切さをあらためてたしかめたり、自分もまた、そのように友達に接していこうとする気持ちを持たせたりして、授業のまとめにしましょう。

## 板書例

【資料の特徴】中心資料の「泣いた赤おに」は、人間と仲良くなりたい赤おにと、赤おにのために悪者の芝居をして仲を取り持ち、赤おにの前から姿を消す親友の青おにの姿を描いた読み物です。「友だち」は、互いに理解し合い、支え合い、助け合える存在が友達なのだ伝えます。そんな友達がいることは誇らしいことだと気付かせ、自分もそうあるうとする気持ちをもちあせてくれる言葉です。

友だちがいてよかったと思ったことがありますか  
それは、どのようなときですか

あそんでいるとき、べん強をするとき  
お見まいに来たとき、ものをひろってくれたとき

### 泣いた赤おに

青おにをなぐっているとき、赤おには  
どのような気持ちだったでしょうか。

赤おにが青おにをなぐっている挿絵

- 人間となかよくなりたい。
- 青おに、すまない。ゆるしてくれ。
- いやだけど、友だちだから分かってくれるかな。

人間となかよくすごしているとき、赤おには  
どのような気持ちだったでしょうか。

人間と仲良く過ごしている赤おにの挿絵

- 人間とすごすのは楽しい。やっと分かってもらった。
- 青おにのおかげだ。ありがとう。
- 青おにはどうしているかな。

### 青おにからの貼り紙 を見て泣いている赤おにの挿絵

- 何で何も言わずに行っただ。
- 青おにはぼくのことを一番分かっていた。
- ぼくは青おにのことを考えなかった。
- 本当の友だちは青おにだ。
- 青おにをさがしに行こう。

友だちのことを考えて行動したことがありますか  
それはどのようなことですか。

- 元気のなさそうだったので、声をかけて話を聞いた。
- 友だちがほけん室に行ってしまったとき、きゅう食当番をかわりにやった。
- てん校生が早くクラスになれるように、声をかけていっしょにあそんだ。

「友だち」の詩

本当の友だちは・・・

### 《評価》

友達を思って行動することができた経験を振り返ることで、友達と信頼し合い、助け合っていることとする気持ちをもつことができたか。